

(様式3)

自己評価結果票 (ユニット1)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1.理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域福祉に貢献できるよう理念をあげている。 (法人理念に準じている)	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念をスタッフルームなど常に目につくところに掲示し、職員の名札の裏に携帯している。 ・朝礼等で確認することもある。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所時に家族、また、地域の方々が見学などされた折に理念の説明をしている。	
2.地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に出会ったときに挨拶を交わしたり、近隣の方々から野菜や花などを頂くなど日頃からつきあいを持てることができている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の行事に老人会の方々を招いたり、地域の行事に参加したりして地域の人々と交流を図っている。	○ 子供との交流の機会を検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の人々との交流について話し合っているが、暮らしの役立ちについての話し合いはできていない。 ・運営推進会議への参加をお願いしている。	○	地域の人々に役立つ勉強会を実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員で自己評価や外部評価について話し合う機会をもち改善についても話し合う機会を持っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営委員会で意見を頂いた事や、また要望を伺った事を職員会議で話し合っサービスの上に取り組んでいる。 ・出来るだけオープンな会議になるよう参加メンバーを検討している。	○	今後も運営推進会議のあり方について検討していきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者等に相談など行うようにしているが具体的に取り組んでいることはない。	○	サービス向上のための今後取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は利用されている方がおらず、活用できていない状況である。	○	研修会等に参加し、基礎知識の習得を図り、権利擁護や成年後見人制度についての話し合いや勉強会も開いていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、重要事項説明書に明記している。虐待の実態はないが委員会などは実施していない。	○	・マニュアルの作成と運用 ・勉強会をもつなどして再度検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に本人、家族へ十分説明し理解納得を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別な機会を設けていないが、人の意見や不満等は直接職員や管理者が聞いて朝礼等の時間で話し合って反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の近況を手紙で送り、小遣い帳の明細もあわせて同封している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や食事会を行い話し合う機会を設けているが、不満・苦情をうける機会としては十分でない。	○	サービス内容について、苦情や不満をくみとれるようなアンケート作成を検討中。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を実施している。議案とし提案してもらい、個別相談にも応じている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	全体での職員会議を持つことやユニットごとで話し合いをしている。状況に応じてパート職員に出勤してもらったり、ユニット間で人員の応援を行ったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考え、しばらくの期間は慣れた職員に付いて業務を行うようにし、十分な引継ぎを行っている。	○	職員の入れ替わりが頻繁にない職場としたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じ研修、勉強会への参加の機会を与えている。また、研修報告の場を設定している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームでの勉強会あり。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	症例検討会の利用、必要であれば個別での相談を行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・行事等の責任者を月ごとに替え、個人の創意工夫が活かせるようにして向上心を持って働けるようにしている。 ・研修等の紹介、資格が活かせる職場づくりに心かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人と別機会です話するように設定している。ケアマネジャーの協力も得られるようにしている。但し、認知症の程度により本人からの話が困難な時もある。	○	初期の段階では、本人の思いをくみとることが難しいと感じている。
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来所され相談される以外にも自宅等への訪問を行うようにして話す機会を設けるようにしている。		
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーの協力も得ながら対応できる範囲で実施。	○	緊急性のある場合、対応できないのが現状である。「どのくらい待てば？」との問いには答えることができない。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に慣れるように家族に泊まって頂くようにしたり、段階的に利用日数を増していくなど、家族とよく相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事作りや家事、余暇活動、散歩など常に利用者と過ごしながらか介護を行い、利用者から学ぶことも多い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や家族の来所時にも近況報告を行い意見等をうかがい利用者を支援する協力関係を築いている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者や家族の状況を考えて外出や外泊を勧めたり行事に家族を誘うなどしてより良い関係の支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が以前利用されていたデイサービス等へ訪問し友人に会ったりしている。また、利用者が以前買い物をしていたところに行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者で外出する機会を作ったり、余暇活動を行う中で、利用者同士が関われるようにしている。	○	人との関わりが負担になる場合もあり、その見極めが大切だと思っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近隣の施設に移られた利用者の家族が訪問されることがあるなど、利用後のつきあいも大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりあいの中で会話や言動から希望・意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者の場合には家族から情報を得て話し合いを行っている。	
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケア会議の実施や個人のケースファイルにてこれまでの暮らしぶりの把握に努めている。	
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活のなかで言動、身体、精神状況等を観察して、ケア会議で職員共有の情報として把握するように努めている。	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケア会議や家族との話し合いを持つようにし、介護計画に反映している。	○ 支援経過についての記録を検討中。
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度見直しを行うようにしている。また、状態が変化した場合は変化した現状に応じて見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日誌に個別の状況を記録し、勤務開始時にそれらを確認し、情報の共有化を図って介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅への送迎や通院を行ったり利用者や家族の状況に応じてできるだけの支援を行っている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会の交流行事、ボランティアの方の協力を得て外出、畑作業、書道を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービスや通所リハビリの利用を行っている。介護用品購入の際の業者の紹介も行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携は取るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医から支援してもらえるように訪問看護も関わりながら行っている。緊急時には併設する診療所へ受診できる体制を取っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	脳神経外科医に支援してもらい、診察以外の相談等も聞いてもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護と契約し、毎週1回訪問してもらい馴染みの関係を築きながら健康管理を支援してもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報提供表を渡すようにしている。また、職員が交代で見舞い等を行い病院側との情報交換し連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算を取っており、重度化した場合の指針を作成している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療連携加算を取っており、重度化した場合の指針を作成している。	○	家人・本人の意向を確認しながら対応したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の生活状況など詳しく説明し、環境や暮らし方の継続性を配慮してもらえるように話し合い利用者のダメージを防ぐように努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に接するさいの言動に注意している。また、個人情報保護法について理解し情報の漏洩防止に努めている。	○	職員間での対応のばらつきがないよう指導している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が押し付けるのではなく、複数の提案をすることによって利用者が選択でき、利用者が納得して暮らしていけるようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意見や希望をできる限り行うように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望があれば買い物にいける体制を取っている。また、月に一度の理容師の訪問日を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けの参加を実施している。月に1度は利用者の希望メニューで食事作りを行っている。		
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の健康状態に配慮して飲食物を居室で管理のできる人は置くようにしたり、個別に支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、排泄誘導を行うことでトイレでの排泄を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状では曜日や時間帯によっては職員の都合で行っている部分もあるが、利用者の希望に沿って行うように努めている。	○	利用者が希望する時間、曜日に入浴できるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	和室にコタツやテレビ鑑賞用の椅子を置き気持ち良く、くつろげるようにしている。また、生活習慣により一人ひとりの就寝時間は違うので、本人のリズムに合わせて就寝できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや配膳、園芸など利用者の得意分野で負担にならない程度に役割をもって行ってもらっています。また、日曜日には併設する施設へカラオケを歌い気晴らしをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと所持したり使用してもらて、個別に合わせている。	○	利用者間同士でのトラブルにならないよう気を付けている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や花への水やり近隣スーパーへの買い物など利用者の希望にそえるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1回、ユニットで花見や大型ショッピングセンターへの外出を行っている。また、家族には事前に手紙でお知らせして参加していただけるようにしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており希望があれば取りつぐようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビングルームに訪問された方々と談話できるようにテーブルと椅子を設置しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による身体的、精神的弊害について理解し、生活環境や見守りの強化をするなどして身体拘束のないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前に他施設の駐車場があり安全面の配慮から玄関ドアは内側からは開かないようにしているが、利用者が散歩等を要望するときは職員が開けて付き添っている。	○	2階、階段のとびらについては、現在改修中。
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入って居られるときはさりげなく様子を伺いに行き常に利用者の所在や様子を把握し、場合によってはマンツーマンで対応するなどしている。夜間も定期的に巡回を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状況にあわせて、その利用者にとって危険なものは目に付かないところに保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデント、アクシデント報告を会議で全職員に伝え、改善策を話し合って事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AED講習に参加するなど医師や看護師からの指導を受けているが、状況によればどんな対応すればよいかわからない不安もある。	○	夜間帯は特に、急変なこともあるので勉強会の時に指導してほしい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会には事前に協力をお願いしており、また近隣の施設とも連携を図れるようになっている。定期的に利用者参加の避難訓練も実施している。	○	防災対策チェックの再確認、夜間防災訓練を検討中

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者のリスクについて説明し、利用者の安全面を配慮しつつ抑圧感のない暮らしができるように話し合っており対応策を考えている。必要があれば医師からの説明もしてもらう。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各個人の普段の様子をよく知り、常に変化や異常の発見に努めている。また、訪問看護への連絡体制があり併設する診療所とも連携しており緊急時の対応にあたっている。情報も日誌に記入し共有している。		
74	○服薬支援 - 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を確認できるようにケースファイルに綴じており個別に把握できるようにしている。	○	服薬まちがいは、特に気をつけるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 - 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつにヨーグルトなどを取り入れたり、一日一回は体操や散歩を行っている。医師や看護師にも相談、アドバイスをもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に、うがい等の介助や声掛けをおこなっている。義歯の洗浄や場合によっては歯科への受診も行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理や水分補給もかねたお茶の時間の設定、食事量、水分量のチェックを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルの作成、職員のインフルエンザ予防接種の実施、手洗いの徹底。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理器具の消毒や週3回献立表に基づく適切な食材量によって新鮮で安全な食材を確保している。 ・定期的な食材（在庫）のチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺に花を植えたり、スロープや手すりを設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・掲示板に季節の飾り付けやカレンダーを貼ったりしている。 ・消臭剤や空気清浄機を使用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを設置したり、談話コーナーをリビングに設けたりして居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具などは馴染みのものを持ってきてもらうように話をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節など適時対応し、ホールの換気や消臭剤の設置など生活環境に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活導線に必要な所に手すりを設置し、全館バリアフリーになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札を一人ひとり違ったもの作成している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周に植え込みをしたり、2階のベランダを利用して七夕会やそうめん流しなど季節に合わせて利用したりしている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (ユニット1)		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ 大いに増えている ☐ 少しずつ増えている ☐ あまり増えていない ☐ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	☐ ほぼ全ての職員が 職員の数 $\frac{2}{3}$ くらいが 職員の数 $\frac{1}{3}$ くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての利用者が 利用者の数 $\frac{2}{3}$ くらいが 利用者の数 $\frac{1}{3}$ くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての家族等が 家族等の数 $\frac{2}{3}$ くらいが 家族等の数 $\frac{1}{3}$ くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・本来のグループホームの姿をとどめるように努める。
- ・利用者及び職員の笑顔の見える施設としたい。
- ・敷居の低い施設としたい。